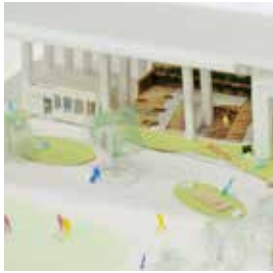


多摩川周辺エリア 未来デザインノート



目次

0. はじめに	01 - 02
1. テーマと全体コンセプト	03 - 04
2. エリア全体の考え方	05 - 06
3. 和泉多摩川駅周辺ゾーンの提案	07 - 12
4. 西河原公園周辺ゾーンの提案	13 - 18
5. ゾーンをつなぐ歩行空間ネットワーク	19 - 20
6. 実現に向けて大切にすること	21
7. 策定経緯と検討体制	22

市長メッセージ



狛江市長 松原 俊雄

狛江市のシンボルである多摩川とその周辺は、自然が豊かで、かつ歴史・文化遺産やスポーツを楽しめる公園もあり、「観光」、「憩い」、「学習」など、様々な側面で、非常に高いポテンシャルを持っているエリアであると言えます。人口減少社会が到来している現代において、これまで人口増加が続いてきた狛江市でも、昨年6月を境に減少傾向に転じ、出生数の減少や高齢化の進展とも相まって、基礎自治体として、今後ますます厳しい状況に置かれることが予測されています。

このような状況の変化を敏感に感じ、これからも狛江市が住みたいまち・子育てしたいまちとして選ばれ続けるために、どのような戦略でまちづくりを進めるべきか。若手職員がそれぞれの立場の中で考えていかなければなりません。

今回、その一つの答として、若手職員10名が、多摩川周辺の地域資源の活用による長期戦略を『多摩川周辺エリア・未来デザインノート』としてまとめました。

このなかでは、和泉多摩川駅周辺と西河原公園周辺及びそれらをつなぐネットワークについて、具体的な提案をしていますが、ここで提案している施策は、今後、関係部署や関係機関との協議・調整、市民参加等を経ながら、市の政策決定プロセスに落とし込んだうえで、順次、取り組んでまいります。

2022年9月

■デザインノートの位置づけ

狛江市未来戦略会議は、「狛江市未来戦略会議の設置及び運営に関する要綱」に基づき、市長を座長として、市職員が中長期的な視点に立った施策等を立案するために設置するものです。

今回の未来戦略会議2021-2022では、狛江市の貴重な財産であるとともに、日常の生活における「憩いの場」や「にぎわいの場」として市民に親しまれている「多摩川」と、その周辺の地域資源の活用をテーマとして、職員10名により検討を重ねてきました。

テーマ

狛江で憩う。ふらっと行こう。

— 「まち」と「かわ」が一体となった多摩川周辺エリアの空間リノベーション—

多摩川周辺エリアは、多摩川や西河原公園の木々に代表されるように自然が豊かで、多くの狛江市民に親しまれています。また、多摩川を少し離れると、むいから民家園や玉翠園跡、万葉歌碑などの歴史・文化遺産や、ノスタルジックな雰囲気を感じる和泉多摩川商店街など、狛江のローカルな良さがぎゅっと詰まったエリアでもあります。

そこで、多摩川周辺エリアにあるこれらの資源を有効に活用して、市外から来た人がふらっと立ち寄りたくなる、フラット（flat＝平坦）な狛江の道でのんびり歩きたくなる。また、市内の人もついつい多摩川に引き寄せられ、それぞれの「憩い」の時間を過ごせるような空間にリノベーションしていきます。

あわせて、今後このリノベーションを進めるにあたり、「身近な自然にふれあい、遊び心がくすぐられる空間に」、「人と人がつながり、にぎわいが生まれる、わくわくする空間に」、「四季折々の街並みを感じ、のんびり歩きたくなる道に」という3つのコンセプトを定めました。この3つのコンセプトをもとに、市民、事業者、行政が協働しながらリノベーションを進め、地域資源を生かした多摩川周辺エリアの魅力向上に取り組めます。

全体コンセプト

1 身近な自然にふれあい、遊び心がくすぐられる空間に

多摩川や西河原公園といった身近な場所で自然にふれあい、水や緑を眺めてリラックスしたり、水遊びや水上アクティビティなど子どもも大人も、遊び心がくすぐられる空間を目指します。



多摩川での水上アクティビティを楽しめる都内有数のレジャースポットに



川や緑といった身近な自然に親しみ、水辺の生き物や植物とふれあえる空間に



暖かい日は、子どもと一緒にピクニックで大人も子どももリラックス



泥遊びや工作など夢中になって遊ぶ子どもたちを見て、大人たちもほっとひと息

2 人と人がつながり、にぎわいが生まれる、わくわくする空間に

地域の商店で飲食・買い物を楽しみ、週末は駅前広場や河川敷などのイベントに気軽に参加するなど、人と人がつながり、にぎわいが生まれる、わくわくする空間を目指します。



アウトドア気分を満喫して、日々の疲れを癒し、身近な場所で味わえる非日常



にぎわい、スポーツ、健康づくり、いろいろな人が出会いコミュニティが育つ場



家族や友人とコーヒーを楽しみながら多摩川や富士山を眺められる絶景スポット



狛江産野菜のマルシェやキッチンカーでにぎわいと地域のつながりを生む

3 四季折々の街並みを感じ、のんびり歩きたくなる道に

桜並木の美しい六郷さくら通り、冬の美しい富士山が眺められる遊歩道など、四季折々の街並みを感じ、狛江の文化や自然に触れながら、のんびり歩きたくなる道を目指します。



自然豊かな狛江の街並みを楽しみ、ゆったりと歩ける道



狛江の歴史や文化に触れながら、古い時代に思いを馳せることができる路（みち）



立ち並ぶお店を覗きながら、軽食を買って、わくわくしながら多摩川に向かう



自然エネルギーを身近に感じ、学び、体験できるネットワークづくり

狛江で憩う。ふらっと行こう。

「まち」と「かわ」が一体となった
多摩川周辺エリアの空間リノベーション

多摩川周辺エリアにおいて、和泉多摩川周辺と西河原公園周辺を2つの重要ゾーンに設定し、それぞれに合わせた魅力づくりと、ゾーンを楽しく歩ける道でつなぎ、地域資源を最大限に活かした多摩川周辺エリアを目指します。

和泉多摩川駅周辺ゾーン

「こころ躍る、にぎわいのかわまち空間」

駅から多摩川まで楽しく安全に歩くことのできるみちや、駅前の広場やぼかぼか広場、小田急線高架下などに、気軽にたたずめる空間を提案します。和泉多摩川商店街とも連携し、にぎわいを創出します。

多摩川では、水上アクティビティをはじめ、にぎわいと交流が生まれる狛江の特徴を活かした、かわまち空間を提案します。

西河原公園周辺ゾーン

「こころ晴れる、遊びとくつろぎの共存空間」

訪れる人々が、まちなかから多摩川を感じられ、自然にふれあい、ゆったりと過ごせる空間を提案します。公園や堤防を活かし、五本松などの自然資源や、そこで楽しむ人々の様子を眺めながらたたずめる日常の憩いの場所となるようにします。

歩行空間ネットワーク

「自然と歴史をあじわう回遊のみち」

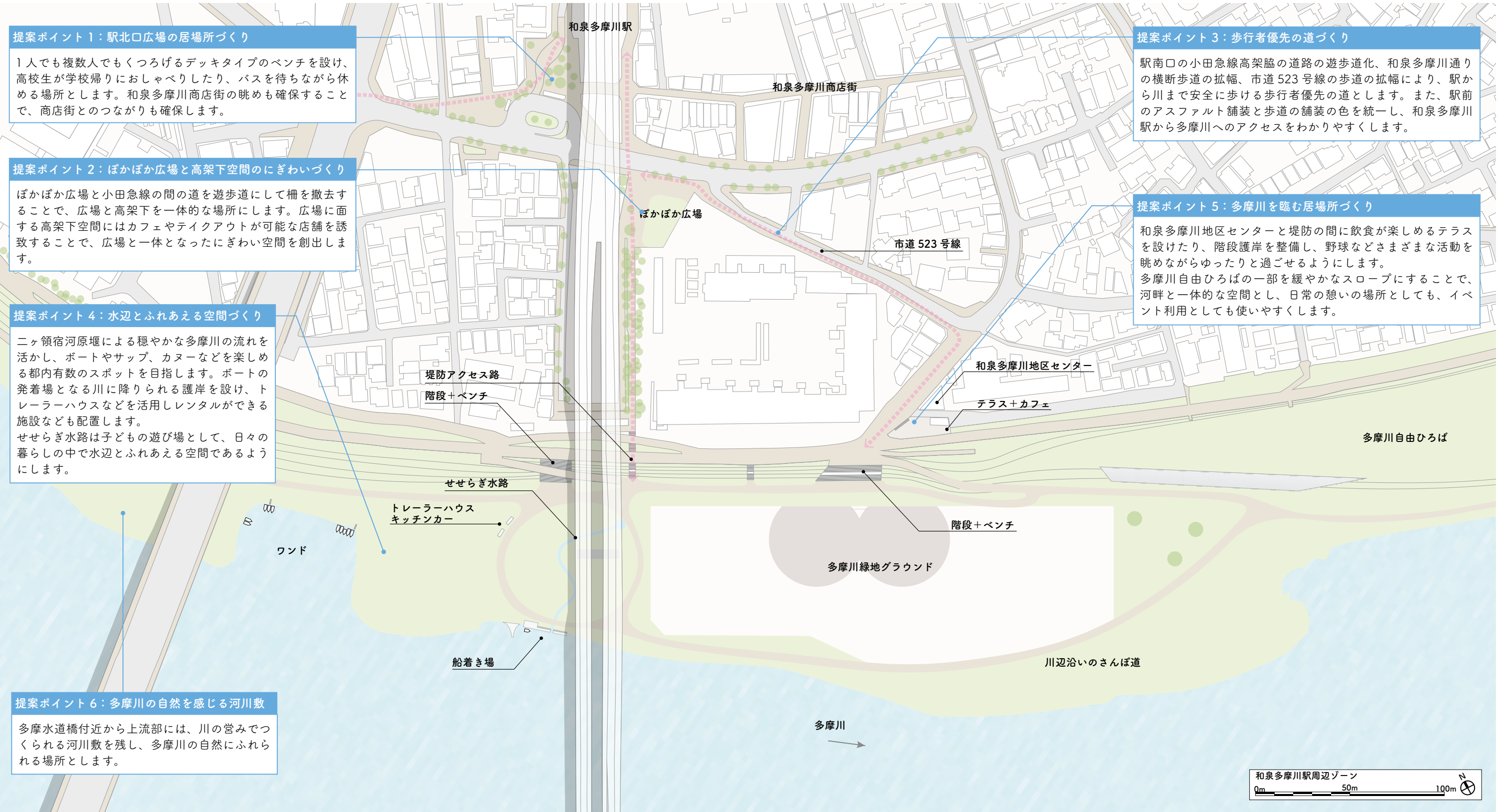
ゆったりとした歩道のある六郷さくら通りや和泉多摩川通り、多摩川の景色を楽しめる堤防の道を活かし、エリア内の歩道の拡幅や車道の遊歩道化などにより、市民が楽しく安全に歩くことができる歩行者に優しい歩行空間のネットワークを提案します。また、自然エネルギーを活用したモビリティや、分かりやすいサイン表示により、エリア内の自然と歴史のネットワークをつなぎます。



「こころ躍る、にぎわいのかわまち空間」

駅から多摩川まで楽しく安全に歩くことのできるみちや、駅前の広場やぼかぼか広場、小田急線高架下などに、気軽にたたずめる空間を提案します。和泉多摩川商店街とも連携し、にぎわいを創出します。

多摩川では、水上アクティビティをはじめ、にぎわいと交流が生まれる和泉の特徴を活かした、かわまち空間を提案します。



提案ポイント 1：駅北口広場の居場所づくり
 1人でも複数人でもくつろげるデッキタイプのベンチを設け、高校生が学校帰りにおしゃべりしたり、バスを待ちながら休める場所とします。和泉多摩川商店街の眺めも確保することで、商店街とのつながりも確保します。

提案ポイント 2：ぼかぼか広場と高架下空間のにぎわいづくり
 ぼかぼか広場と小田急線の間を遊歩道にして柵を撤去することで、広場と高架下を一体的な場所にします。広場に面する高架下空間にはカフェやテイクアウトが可能な店舗を誘致することで、広場と一体となったにぎわい空間を創出します。

提案ポイント 4：水辺とふれあえる空間づくり
 ニヶ領宿河原堰による穏やかな多摩川の流れを活かし、ポートやサップ、カヌーなどを楽しめる都内有数のスポットを目指します。ボートの発着場となる川に降りられる護岸を設け、トレーラーハウスなどを活用しレンタルができる施設なども配置します。せせらぎ水路は子どもの遊び場として、日々の暮らしの中で水辺とふれあえる空間であるようにします。

提案ポイント 6：多摩川の自然を感じる河川敷
 多摩水道橋付近から上流部には、川の営みでつくられる河川敷を残し、多摩川の自然にふれられる場所とします。

提案ポイント 3：歩行者優先の道づくり
 駅南口の小田急線高架脇の道路の遊歩道化、和泉多摩川通りの横断歩道の拡幅、市道 523 号線の歩道の拡幅により、駅から川まで安全に歩ける歩行者優先の道とします。また、駅前のアスファルト舗装と歩道の舗装の色を統一し、和泉多摩川駅から多摩川へのアクセスをわかりやすくします。

提案ポイント 5：多摩川を臨む居場所づくり
 和泉多摩川地区センターと堤防の間に飲食が楽しめるテラスを設けたり、階段護岸を整備し、野球などさまざまな活動を眺めながらゆったりと過ごせるようにします。多摩川自由ひろばの一部を緩やかなスロープにすることで、河畔と一体的な空間とし、日常の憩いの場所としても、イベント利用としても使いやすくします。

提案ポイント1：駅北口広場の居場所づくり

駅北口広場の滞留スペース

現在の駅北口広場の骨格はそのままに、樹木を間引き、1人でも複数人でもくつろげるデッキタイプのベンチを設けます。高校生が学校帰りにおしゃべりしたり、バスを待ちながら休める場所とします。和泉多摩川商店街との眺めを確保することで、商店街とのつながりも確保します。



さまざまな使い方が可能なデッキタイプのベンチ

大きさの異なるデッキタイプのベンチでは、向かい合って座ったり、横に並んで座ったり、1人でたたずんだり、さまざまな使い方ができます。

提案ポイント2：ぼかぼか広場と高架下空間のにぎわいづくり

ぼかぼか広場と一体となる高架下空間

ぼかぼか広場と小田急線の高架下空間の道を遊歩道にして柵を撤去することで、広場と高架下空間が一体となる空間をつくります。

高架下のにぎわいと滞留空間

広場に面する高架下空間には、お茶を楽しんだり、食べ物をテイクアウトできる店舗を誘致し、広場と一体となったにぎわい空間をつくります。

高架下空間には、階段型のベンチや遊具も設けることで、ぼかぼか広場や遊具で遊ぶ子どもを眺めながら、のんびり過ごすことができるようにします。



提案ポイント3：歩行者優先の道づくり

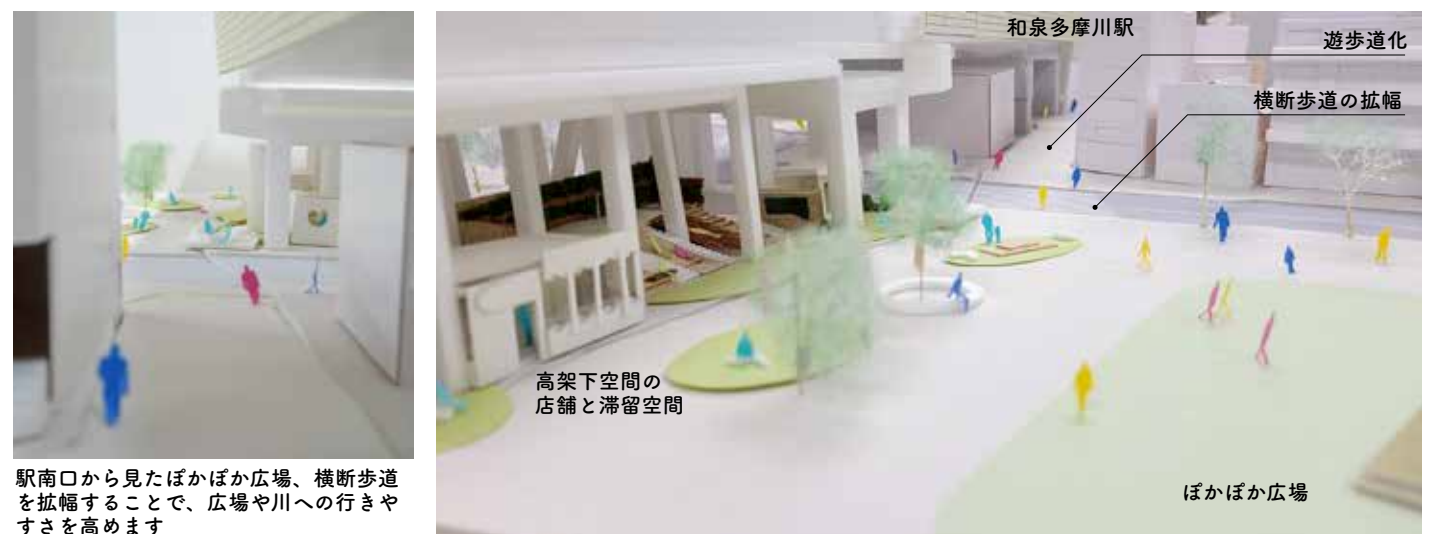
駅と多摩川をつなぐ歩道ネットワーク

駅南口の小田急線高架脇の道路の遊歩道化、和泉多摩川通りの横断歩道の拡幅、市道523号線の歩道の拡幅により、駅から川まで安全に歩ける歩行者優先の道とします。また、駅前のアスファルト舗装と歩道の舗装の色を統一し、和泉多摩川駅から多摩川へのアクセスをわかりやすくします。



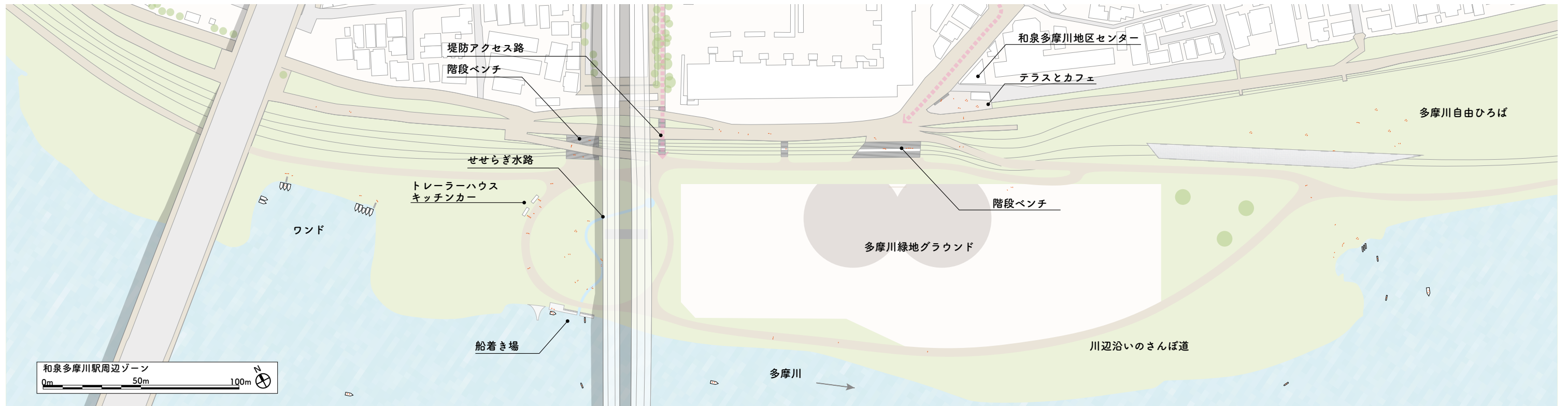
駅南口とぼかぼか広場・高架下空間をつなぐ

駅南口の高架脇道路を遊歩道とし、横断歩道の幅を広げることで、駅南口からぼかぼか広場や高架下空間の様子を見て取れたり、多摩川への行き方をわかりやすくします。



提案ポイント4：水辺とふれあえる空間づくり

提案ポイント5：多摩川を臨む居場所づくり



せせらぎ水路

小さな子どもでも水遊びできるせせらぎ水路。暑い日でも日陰で見守れるように、小田急線の橋の近くに配置します。



トレイラーハウスやキッチンカー

せせらぎ水路やワンドの近くにトレイラーハウスやキッチンカーを配置し、飲食を楽しみながら過ごせるようにします。



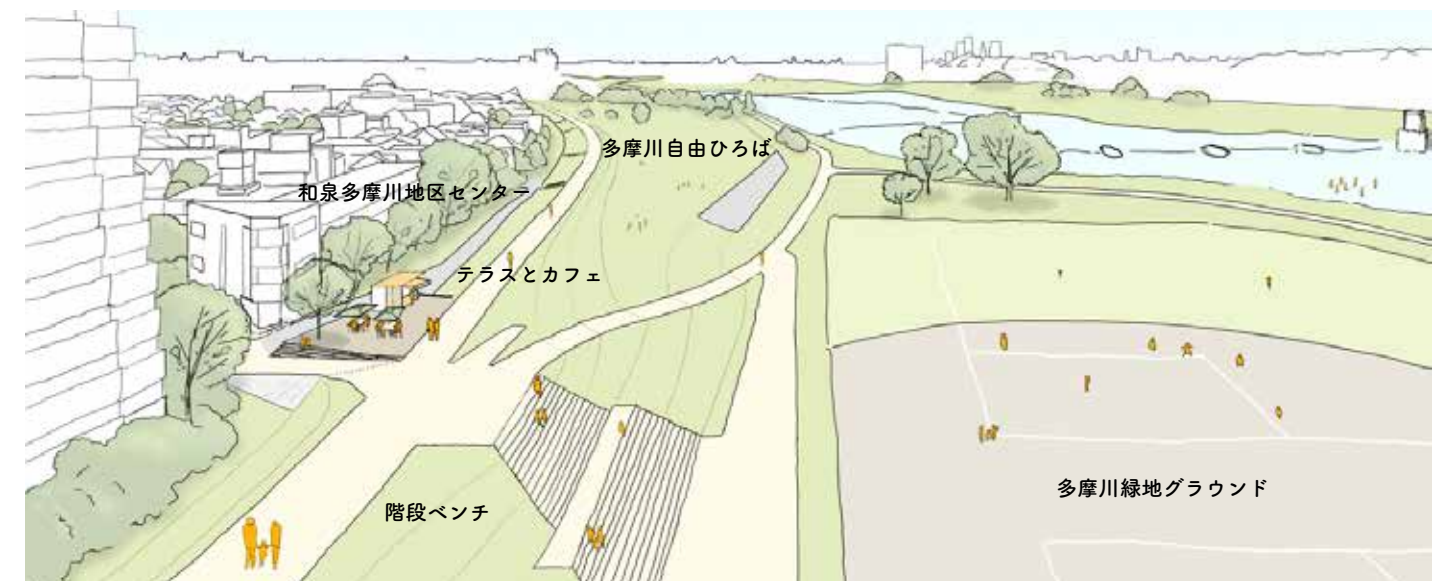
船着き場

カヌーやボートを進水できる緩やかな傾斜と、サップなどがしやすい階段状の護岸による船着き場を設けます。



ワンド

狛江の風物詩だった多摩川のボート乗り場を復活し、水上アクティビティの拠点をつくります。



テラスとカフェ

和泉多摩川地区センターと堤防の間に、堤防と同じ高さのテラスを設け、多摩川のさまざまな活動を眺めながら、飲食が楽しめるカフェをつくります。

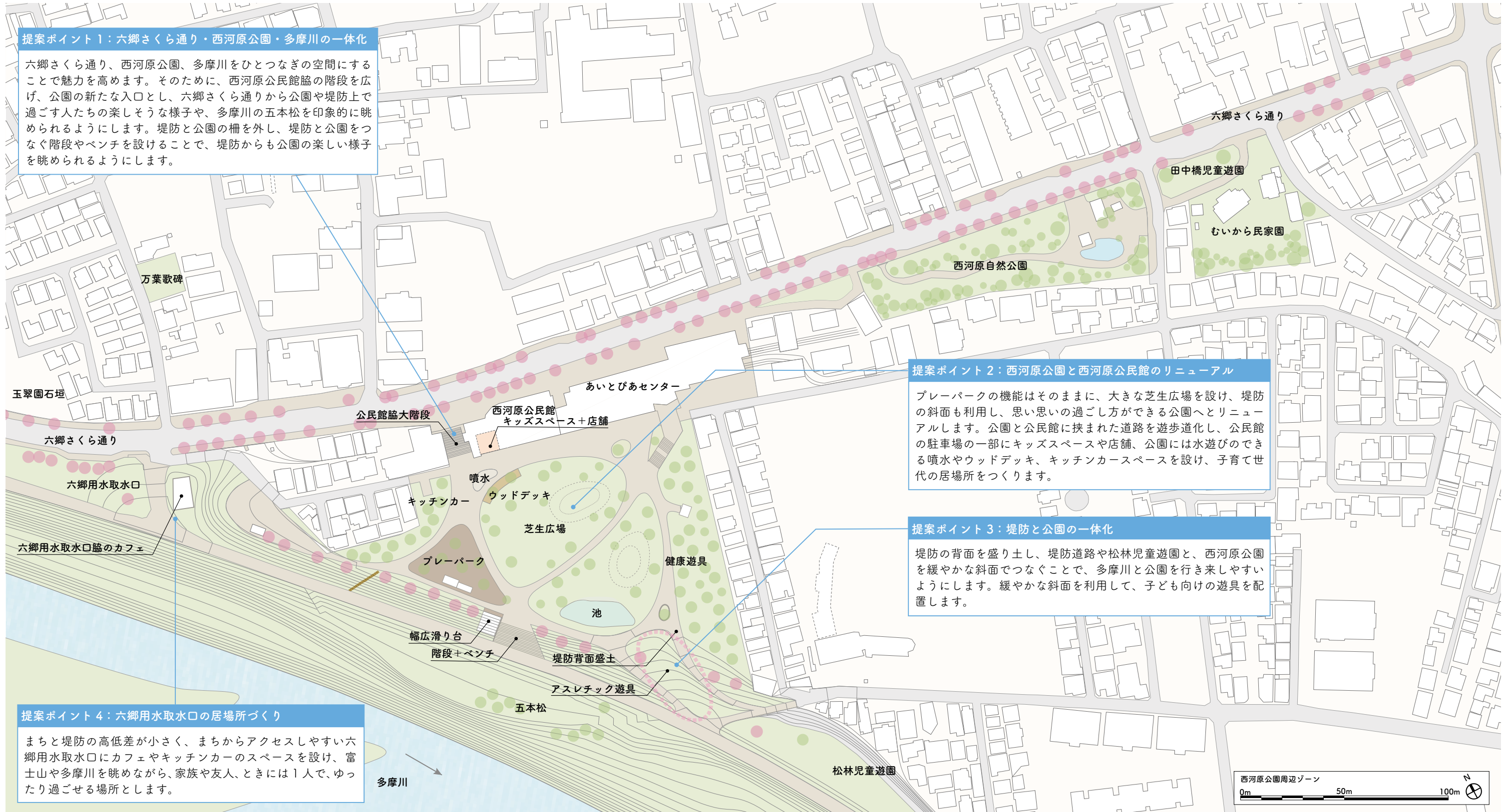
ベンチタイプの階段護岸と緩やかなスロープ

腰掛けやすい段差の護岸を設け、野球の応援や多摩川の風景をのんびり楽しめるようにします。多摩川自由ひろばの一部を緩やかなスロープにすることで、河畔と一体的な空間とし、日常の憩いの場としても、イベント利用としても使いやすくします。



「こころ晴れる、遊びとくつろぎの共存空間」

訪れる人々が、まちなかから多摩川を感じられ、自然にふれあい、ゆったりと過ごせる空間を提案します。公園や堤防を活かし、五本松などの自然資源や、そこで楽しむ人々の様子を眺めながらたずめる日常の憩いの場所となるようにします。



提案ポイント1：六郷さくら通り・西河原公園・多摩川の一体化

六郷さくら通り、西河原公園、多摩川をひとつなぎの空間にすることで魅力を高めます。そのために、西河原公民館脇の階段を広げ、公園の新たな入口とし、六郷さくら通りから公園や堤防上で過ごす人たちの楽しそうな様子や、多摩川の五本松を印象的に眺められるようにします。堤防と公園の柵を外し、堤防と公園をつなぐ階段やベンチを設けることで、堤防からも公園の楽しい様子を眺められるようにします。

提案ポイント2：西河原公園と西河原公民館のリニューアル

プレーパークの機能はそのままに、大きな芝生広場を設け、堤防の斜面も利用し、思い思いの過ごし方ができる公園へとリニューアルします。公園と公民館に挟まれた道路を遊歩道化し、公民館の駐車場の一部にキッズスペースや店舗、公園には水遊びのできる噴水やウッドデッキ、キッチンカースペースを設け、子育て世代の居場所をつくります。

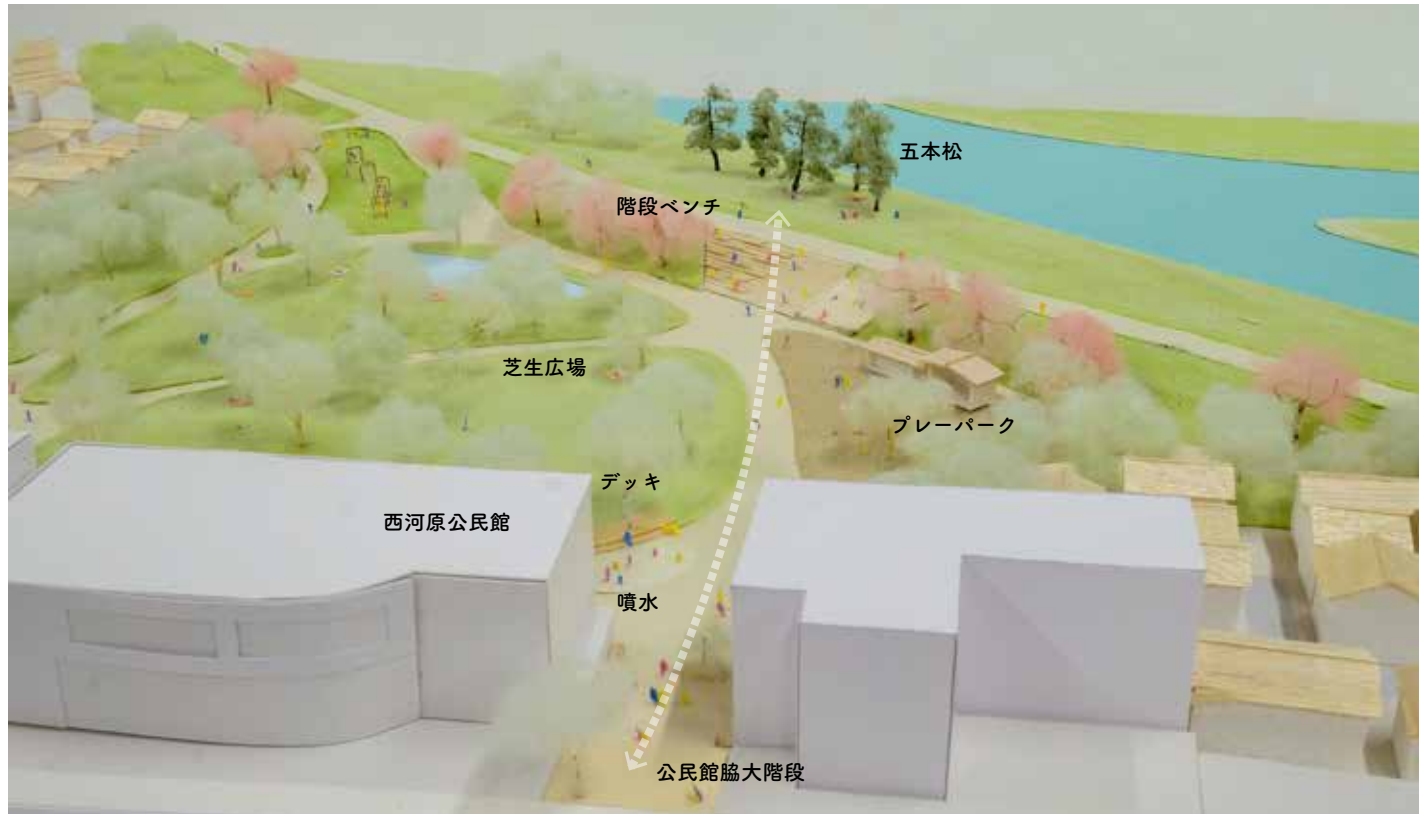
提案ポイント3：堤防と公園の一体化

堤防の背面を盛り土し、堤防道路や松林児童遊園と、西河原公園を緩やかな斜面でつなぐことで、多摩川と公園を行き来しやすいようにします。緩やかな斜面を利用して、子ども向けの遊具を配置します。

提案ポイント4：六郷用水取水口の居場所づくり

まちと堤防の高低差が小さく、まちからアクセスしやすい六郷用水取水口にカフェやキッチンカーのスペースを設け、富士山や多摩川を眺めながら、家族や友人、ときには一人で、ゆったり過ごせる場所とします。

提案ポイント1：六郷さくら通り・西河原公園・多摩川の一体化



六郷さくら通り・西河原公園・多摩川をつなぐ

西河原公民館脇の階段を公園へのエントランス空間とし、六郷さくら通りから公園の楽しそうな様子や多摩川の五本松が印象的に眺められるようにすることで、川とまちと公園を一体的な空間にします。

六郷さくら通りと堤防をつなぐ園路に沿って、デッキや噴水のある広場、芝生広場、プレーパーク、階段ベンチや幅広滑り台を園路に配置し、見通しの良い開放的な空間とします。



六郷さくら通りと公園をつなぐ公民館脇の大階段

ウッドデッキや噴水で遊ぶ子どもや、キッチンカーで買ったものを食べる人の姿の向こうに、多摩川の堤防のベンチに座る人や幅広滑り台で遊ぶ子どもの姿、泊江の五本松が見えるようにすることで、公園に行ってみたくなるエントランス空間にします。



多摩川と公園をつなぐ堤防斜面

堤防から公園の見通しを良くし、堤防斜面に階段ベンチを設けることで、多摩川沿いで散歩やランニング、サイクリングを楽しむ人も休憩できる場所をつくります。階段ベンチからは、芝生広場やプレーパークで遊ぶ子どもたちの姿を眺めることができます。

提案ポイント2：西河原公園と西河原公民館のリニューアル



大きな芝生広場を中心に、公民館や堤防をとりこんだ気持ちの良い公園

公園内の見通しを妨げていた低木植栽を無くし、大きな芝生広場を中心とした公園にリニューアルします。大きな芝生広場では、ピクニックやかけっこなど多様な過ごし方ができます。

また、公民館やあいとびあセンター、多摩川堤防との境を無くし、隣接する施設と一体となった魅力的な場所をつくり、子育てがしやすく、そこに行けば誰かに会える公園にします。



プレーパークと堤防の幅広滑り台

プレーパークの機能はそのままに、堤防や芝生広場も含めて広く使える空間にします。堤防と公園の柵を外し、幅広滑り台を設けることで、子どもたちが体を動かして楽しめる場所を増やします。



公民館前の公園エントランス

公園に面する公民館1階にはキッズスペースと店舗、向かい側の公園にはウッドデッキと噴水による広場をつくります。噴水での水遊びやキッチンカーによるにぎわいなど、公園の入口にふさわしい場所とします。

提案ポイント3：堤防と公園の一体化

堤防と公園の一体化

堤防の公園側を盛り土し、堤防道路や松林児童遊園と、西河原公園を緩やかな斜面でつなぐことで、多摩川と公園を行き来しやすいようにします。斜面には木製のアスレチックを配置し、子どもの遊び場をつくります。



松林児童遊園と脇の道

松林児童遊園の脇の道と柵を無くし、松林児童遊園と堤防をゆるやかにつなぎます。川を眺めながら遊んだり、休んだりできる場所にします。

提案ポイント4：六郷用水取水口の居場所づくり

六郷用水取水口脇の広場

まちと堤防の高低差が小さく、まちからアクセスしやすい六郷用水広場にカフェやキッチンカーのスペースを設け、多摩川を眺めながら、家族や友人、ときには1人で、ゆったり過ごせる場所をつくります。

また、万葉歌碑や玉翠園の石垣など、粕江の歴史めぐりの起点となるようにします。



六郷用水取水口と西河原公園をつなぐ

取水口脇の広場と西河原公園をゆるやかな斜面でつなぐことで、公園との行き来をしやすいようにします。

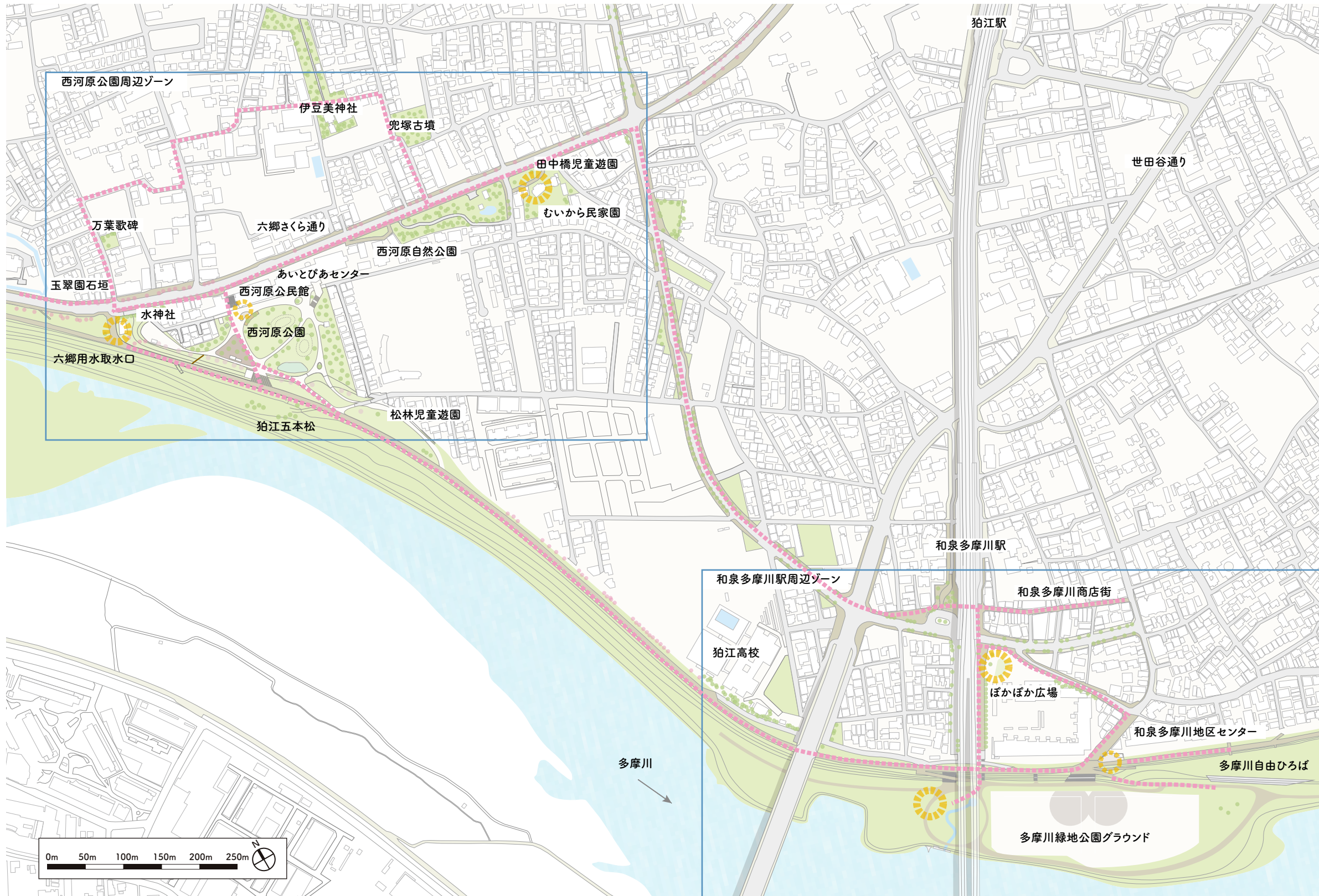


六郷用水取水口脇のカフェ

六郷さくら通りからも目立ち、多摩川を眺められる場所に、テラスのあるカフェを設けます。散策やランニング、サイクリングの休憩場所や、市民がお茶を楽しむ場所にします。

「自然と歴史をあじわう回遊のみち」

ゆったりとした歩道のある六郷さくら通りや和泉多摩川通り、多摩川の景色を楽しむ堤防の道を活かし、エリア内の歩道の拡幅や車道の遊歩道化などにより、市民が楽しく安全に歩くことができる歩行者に優しい歩行空間のネットワークを提案します。また、自然エネルギーを活用したモビリティや、分かりやすいサイン表示により、エリア内の自然と歴史のネットワークをつなぎます。



提案ポイント1：既存施設を活かした滞留空間

歩行空間ネットワーク沿いに公共施設や広場を活かした滞留空間をつくることで、目的地となる場所を増やし、ウォーカブルなまちにします。



歴史的な建物を改修し、地域住民の居場所として活用している事例（若手県住田町）

提案ポイント2：道路サインによる来訪者の誘導

万葉歌碑やむいから民家園、玉翠園跡の石垣、伊豆美神社など、エリア内に点在する歴史スポットを歩行者が気持ちよく回ることができるよう、道路標示や誘導・説明サインを整備します。



昔の橋やかつての風景を伝えるサイン（東京都中央区）

提案ポイント3：モビリティの導入「グリスロ」

六郷用水取水口脇のカフェを拠点に、グリーンスローモビリティを試験導入し、親子連れや高齢者を西河原公園や歴史スポットに呼び込みます。



出典：電脳交通 HP

環境省IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業（広島県尾道市）

提案ポイント1：隣接する空間の一体化に向けた工夫

多摩川周辺エリアには、公共・民間を問わず、多くの魅力的な空間資源が存在しています。本デザインノートにて提案したように、隣接する空間資源を一体化することで、その魅力を高め、にぎわいとくつろぎを楽しめる市民の居場所をつくります。



公園と商業施設を一体的に整備し、魅力的な空間を生み出している例（東京都中野区）



河川管理者と市町村が協力し、お互いの敷地境界をまたいで整備し、まちと川をつなぐかわまち空間を生み出している例（島根県津和野町）

提案ポイント2：公共空間のオープン化に向けた工夫

公園や道路などのパブリックスペースを活用したにぎわいの創出と、パブリックスペースが日常的な居場所として多様な目的やライフスタイルが共存しつながることができる場として活用できるようにします。ふらっと立ち寄れる居心地の良い公園の整備、道路を活用したにぎわいスペースの設置、サテライトオフィスの設置などにより「職住近接のまち」としての機能を持たせることを目指します。



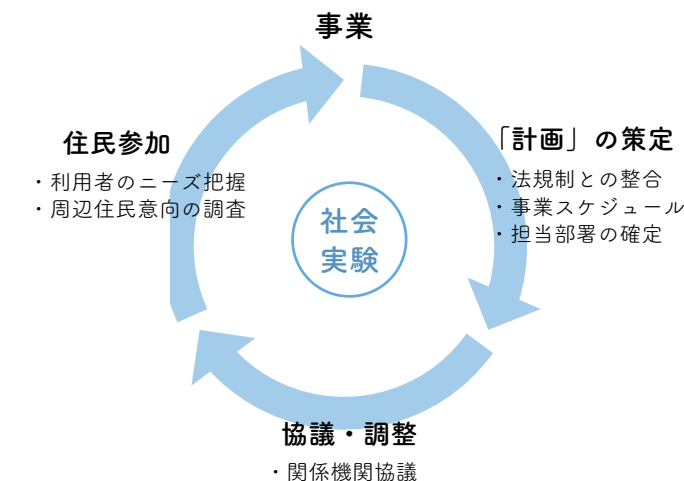
ばかばか広場のオープニングイベント「ばかフェス」の様子



気持ち良い環境で仕事に取り組む（東京都町田市）

提案ポイント3：市民との協働

今回の提案をプロジェクトとして進めていくために、検討会議やトライアル（社会実験）など、市民や事業者が主体的に参加できる「市民参加型」の取り組みができる体制をつくります。



- 2021
- 第1回グループミーティング（2021年11月16日）
市長講話
 - 第2回グループミーティング（2021年11月25日）
再エネ供給をはじめとする検討（三菱商事株式会社）
 - 第3回グループミーティング（2021年12月16日）
2021 未来戦略会議アドバイザー二井先生による基調講話
 - 第4回グループミーティング（2022年1月19日）
多摩川エリア全体コンセプトと実現に向けた計画案の検討
 - 第5回グループミーティング（2022年2月16日）
多摩川エリア全体コンセプトの決定
 - 第6回グループミーティング（2022年3月16日）
多摩川・未来デザインノート全体コンセプトの完成
 - 第7回グループミーティング（2022年4月26日）
多摩川周辺のフィールドワーク
- 2022
- 事例視察（2022年5月15日）
南町田グランベリーパーク
 - 第8回グループミーティング（2022年5月25日）
フィールドワークに基づく空間改善案の検討
 - 第9回グループミーティング（2022年6月29日）
模型による計画案の検討①（和泉多摩川駅周辺・西河原公園周辺）
 - 第10回グループミーティング（2022年7月27日）
模型による計画案の検討②（和泉多摩川駅周辺・西河原公園周辺）
 - 第11回グループミーティング（2022年8月17日）
多摩川河川敷周辺における計画案の検討
 - 第12回グループミーティング（2022年9月14日）
多摩川周辺エリア・未来デザインノートの完成



現地調査で魅力と課題の再確認（第7回/2022年4月）



各ゾーンの空間イメージを議論（第8回/2022年5月）



模型による計画案の議論（第9回/2022年6月）



未来戦略会議メンバーと、検討に参加した国士館大学景観・デザイン研究室のメンバーの記念写真

■未来戦略会議 2021-2022 の検討体制

所属部署	氏名	職名	役割
企画財政部 秘書広報室広報広聴担当	掛川 智史	主査	
総務部 施設課施設計画係	村木 浩子	主任	
福祉保健部 福祉相談課生活支援係	宇野 暁行	主事	
子ども家庭部 子ども政策課企画支援係	西村 亜輝彦	係長	○
子ども家庭部 児童育成課放課後対策推進担当	加藤 裕之	主査	◎
環境部 環境政策課環境係	須藤 菜穂	主任	
環境部 環境政策課水と緑の係	海老原 悠輔	係長	○
都市建設部 まちづくり推進課まちづくり推進担当	北川 香織	主事	
都市建設部 整備課財産管理係	荻野 生雄	主任	
教育部 社会教育課社会教育係	瀧川 直樹	課長補佐	

◎：リーダー、○：サブリーダー

未来戦略会議 2021-2022 アドバイザー	二井 昭佳 (国士館大学 理工学部 まちづくり学系 教授)
未来デザインノート 作成協力	田口 凌介 (国士館大学大学院 建設工学専攻 景観・デザイン研究室)
模型作成等協力	国士館大学 理工学部 まちづくり学系 景観・デザイン研究室
事務局	銀林 悠、田代 興大、加藤 花、 福井 昌美 (企画財政部未来戦略室)

未来戦略会議 2021-2022 アドバイザー：

二井 昭佳 教授 紹介

1975年生まれ。博士（工学）。国士館大学理工学部まちづくり学系教授。土木デザインや景観まちづくりを専門とし、復興まちづくりや駅前広場、道の駅や橋、水辺空間など、多くのプロジェクトに関わっています。国土交通省や町田市などでも景観アドバイザーを務めており、多摩川周辺エリアの未来構想のアドバイザーを依頼しました。

P5-P8、P10-P14、P19-P20 で用いた地図は、「国土地理院基盤地図情報」を加工して作成したものです